

Iwatani

**2021年3月期
中間決算説明会**

2020年11月18日

岩谷産業株式会社

- 2021年3月期 中間決算概況
- 2021年3月期 通期業績予想
- 事業トピックについて

2021年3月期 中間決算概況

減収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2021年 3月期 中間実績	2020年 3月期 中間実績	前年差 (増減額)	2021年 3月期 通期予想
売上高	2,846	3,231	△384	6,775
売上総利益	782	801	△18	-
営業利益	75	83	△7	247
営業外損益	22	15	+6	29
経常利益	97	98	△1	276
市況要因を除く 経常利益	121	118	+3	276
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	62	62	+0	173

売上高増減

20年3月期
中間実績

21年3月期
中間実績

△384
(△11.9%)

2,846

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

売上高は、LPガス輸入価格が低位に推移し、販売価格が下がったことに加え、新型コロナウイルスの影響により、工業分野向けの主力商品の販売が減少し、前年同期に比べ384億円減収の2,846億円となりました。

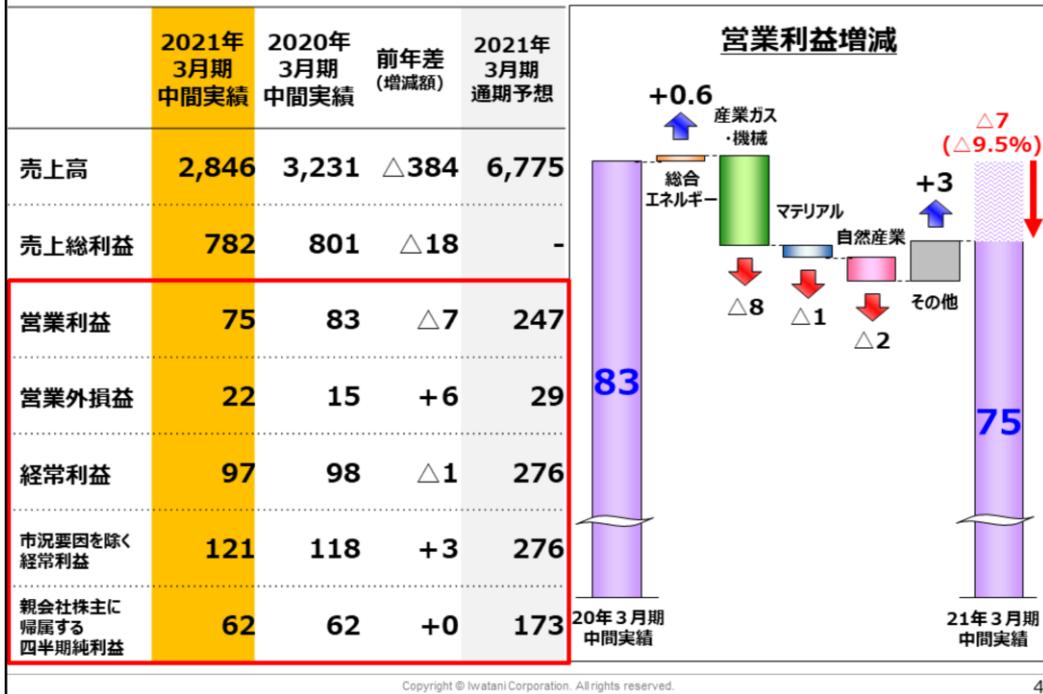
この内、総合エネルギー事業で176億円のマイナスとなっておりますが、主にLPガス輸入価格の下落や、業務用・工業用を中心としたLPガス販売数量の減少、および海外でのバーター取引の減少によるものです。

売上総利益は、総合エネルギー事業においては、巣ごもり需要などにより、家庭用LPガスやカセットこんろ・ボンベの販売が好調に推移しましたが、マイナス24億円の在庫に起因する市況要因が発生したことに加え、新型コロナウイルスの影響により、産業ガス・機械事業、マテリアル事業、自然産業事業において、主力製品の販売が減少したため、前期比18億円減益の782億円となりました。

減益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

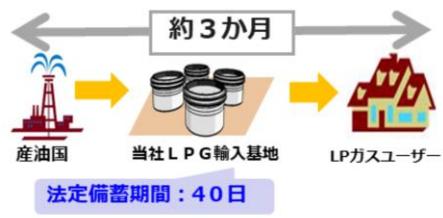
4

続いて、営業利益は、旅費交通費などの販管費が前期に比べ10億円減少したことで、前期比7億円減益の75億円となりました。営業外損益は、持分法投資利益等が増加したことで、前期比6億円の収益改善となり、経常利益は、前期比1億円減益の97億円、市況要因を除いた経常利益については、前期比3億円増益の121億円となっております。なお、当期純利益については、法人税率の減少などにより、44百万円増益の62億円となりました。

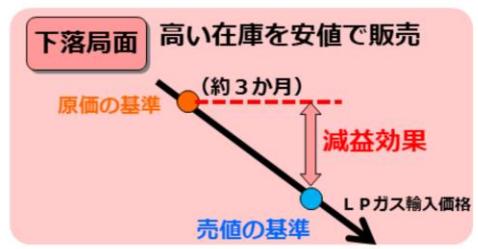
LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

- 前提** ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

卸売価格 ∝ LPガス輸入価格
 (中東玉 (CP) と米国玉 (MB) で構成)



LPガス輸入価格が変動 → **短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）**
 (LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ) ※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

次に、セグメント別の状況について説明させていただきますが、まず、LPガスの輸入価格の変動が業績に与える影響について、簡単にご説明致します。

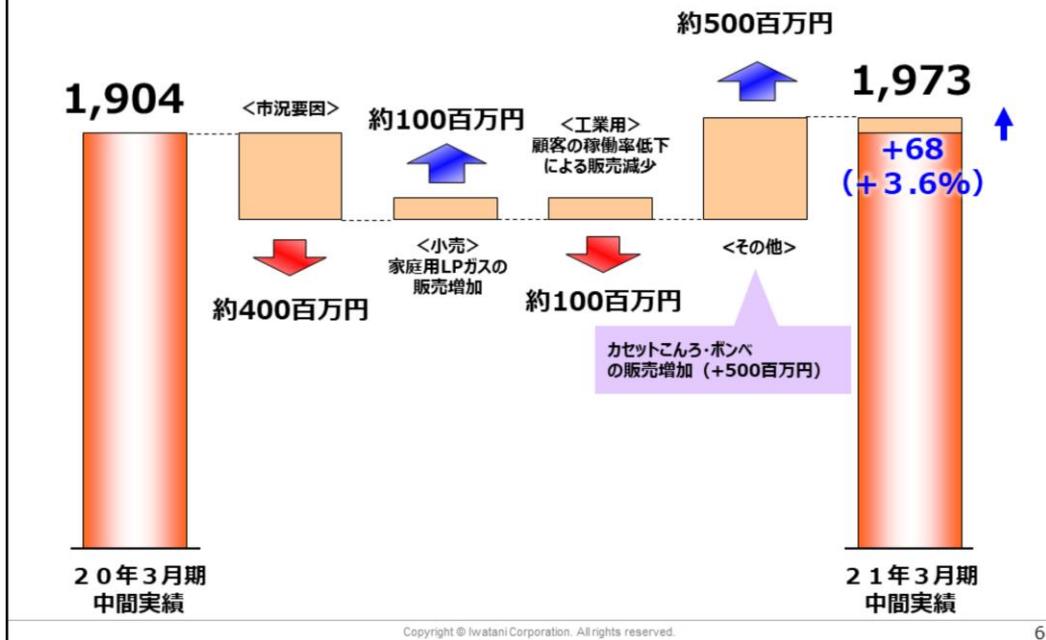
当社はLPガスの中東と米国から輸入しており、中東からの輸入価格を「コントラクト プライス」、略してCP（シーピー）と呼び、米国からの輸入価格を「montbelview」、略してMB（エムビー）と呼んでおり、これらの価格は毎月変動いたします。当社は、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格をCPとMBに連動する価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。これらの影響を「市況要因」と呼んでおります。なお、CPの推移については、決算短信の14ページに記載しております。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



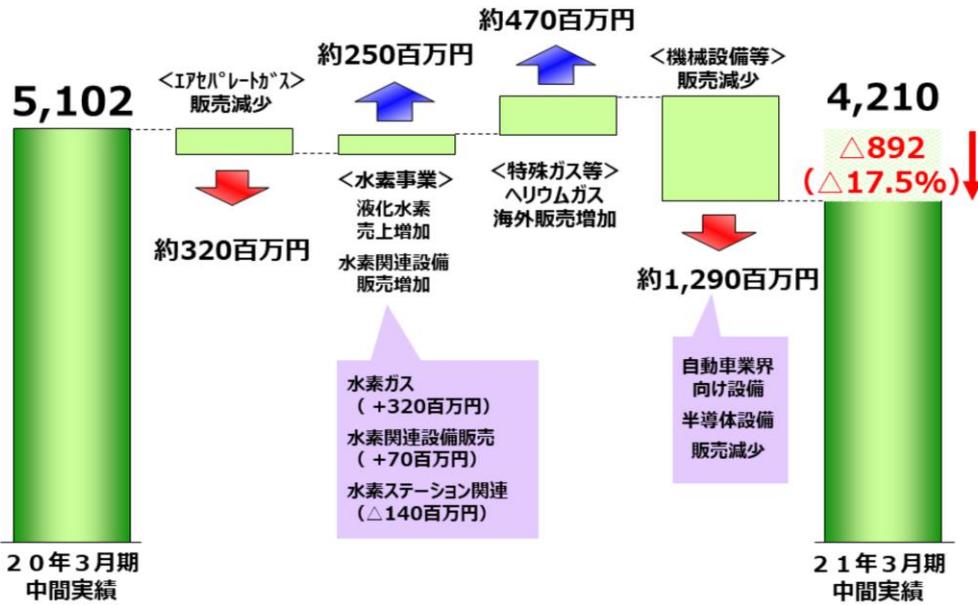
総合エネルギー事業は、市況要因については、マイナス24億円となり、前期比では4億円の減益となりました。小売部門については、在宅率の上昇により、家庭用LPガスの販売が増加しましたが、業務用・工業用については、顧客の稼働率の低下により、販売数量が減少しました。

一方で、LPガス以外については、巣ごもり需要などにより、カセットこんろ・ボンベの販売が好調に推移し、増益となりました。

この結果、当事業分野の営業利益は3.6%増益の19億円となりました。なお、9月末時点のLPガスの直売顧客数は100万戸となっております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスについては、自動車関連業界および、光ファイバー業界向けの販売が減少しましたが、水素については、液化水素の売上が増加したことに加え、水素関連設備の販売が伸長しました。

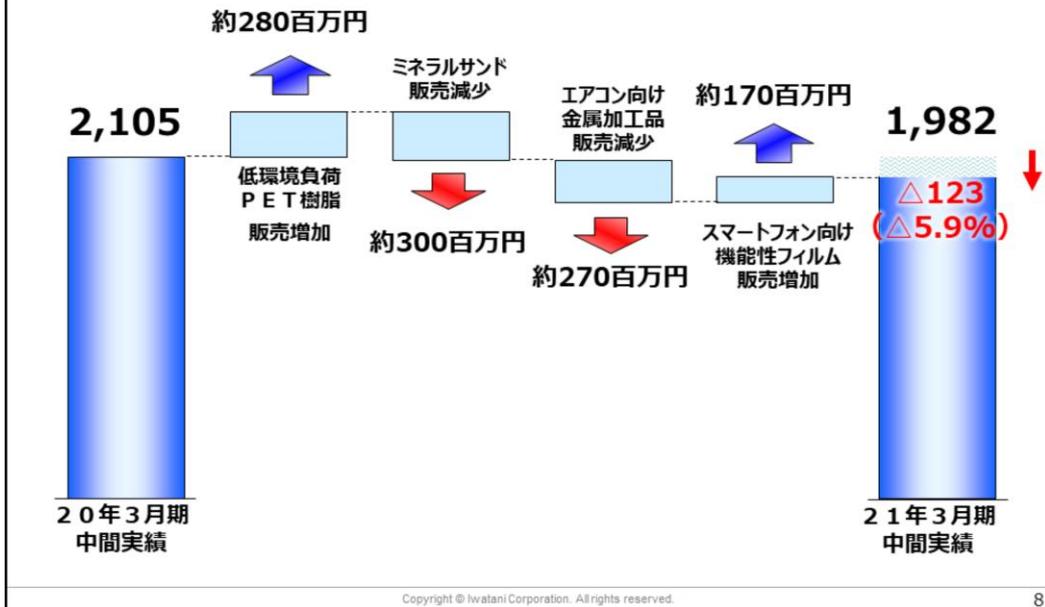
特殊ガスでは、ヘリウムの海外での販売が増加したことに加え、減価償却費が減少したことで増益となりました。

一方、機械設備については、自動車関連業界や半導体業界を中心に、顧客の設備投資の延期などにより販売が減少しました。

この結果、当事業分野の営業利益は17.5%減益の42億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



マテリアル事業は、
低環境負荷のPET樹脂が、飲料向けに加え、
包装用フィルム向けの販売も増加しました。

ミネラルサンドについては、豪州で、前期に買収した鉱区の
生産・販売は順調に推移しましたが、自動車関連業界などの低迷により、
国内外で販売が減少しました。

また、エアコン向け金属加工品の販売は減少しましたが、
スマートフォン向けの機能性フィルムの販売が増加しました。

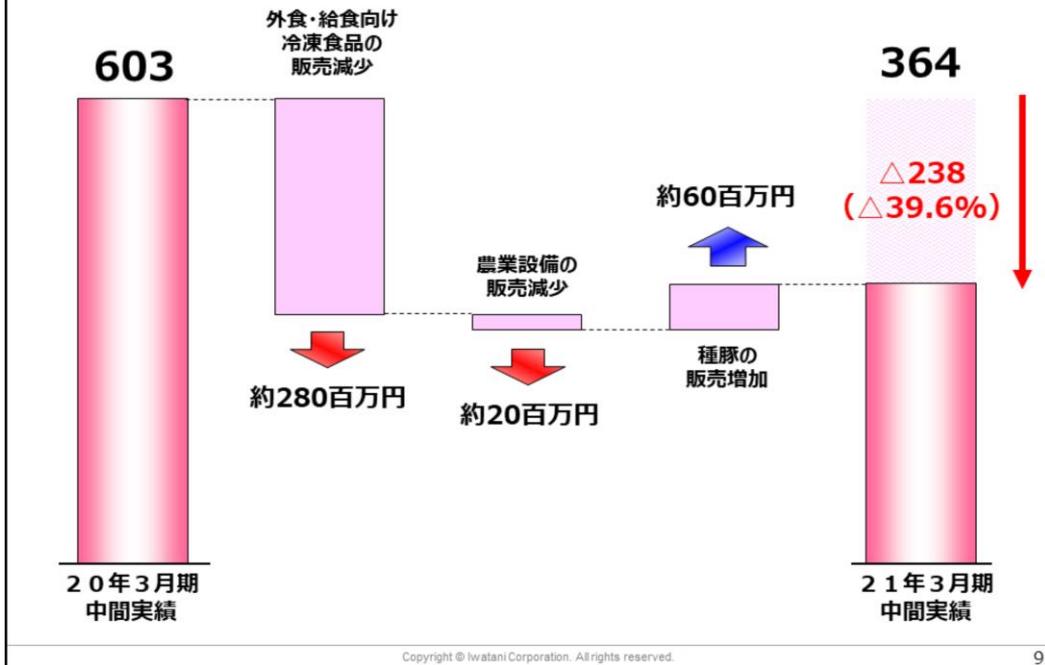
この結果、当事業分野の営業利益は5.9%減益の19億円となりました。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

8

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



自然産業事業は、
外食および給食業界向け冷凍食品の販売や農業設備案件が減少しましたが、
種豚の出荷は増加しました。

この結果、当事業分野の営業利益は39.6%減益の3億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2020年 9月末	2019年 9月末	前年差 増減額	主な増減理由
流動資産	1,958	1,972	△14	現預金+128億円
有形固定資産	1,740	1,693	+47	水素ステーションや液化水素製造設備などの水素事業、LPGガスセンターへの投資
無形固定資産	167	172	△5	
投資その他の資産	854	789	+65	保有株式の時価評価による投資有価証券の増加
固定資産	2,762	2,655	+107	
総資産	4,720	4,628	+92	
流動負債	1,774	1,669	+104	現預金の積み増しによる借入金の増加
固定負債	874	1,191	△317	社債の減少
負債	2,648	2,861	△212	有利子負債 1,370億円 有利子負債依存度 29.0%
自己資本	1,983	1,682	+300	(自己資本比率 42.0%) (ネットD/Eレシオ 0.50倍)
非支配株主持分	89	84	+4	
純資産	2,072	1,766	+305	
負債・純資産	4,720	4,628	+92	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

主な財政状態についてご説明致します。

9月末の総資産は、前年同期末比92億円増加の4,720億円となりました。

自己資本については、転換社債300億円の内、103億円が9月30日時点で株式に転換されたことなどから、前年同期末比で300億円増加の1,983億円となり、自己資本比率は5.7ポイント改善し、42.0%となりました。

有利子負債も、同じく転換社債103億円が株式に転換されたことなどから、前年同期末比で109億円減少し1,370億円となり、有利子負債依存度は3.0ポイント改善し、29.0%となりました。

なお、転換社債に関しては10月9日までに全額の株式転換が完了し、1990年以降、30年に渡って200億円であった資本金が350億円となりました。資本の充実が図られたことで、今後はさらなる成長に向けて、積極的な投資を行い、事業規模、収益力の拡大に取り組んでまいります。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2021年3月期 中間実績	2020年3月期 中間実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	106	42	+64
投資キャッシュ・フロー	△133	△168	+34
フリー・キャッシュ・フロー	△27	△125	+98
財務キャッシュ・フロー	152	180	△28
換算差額等 ※1	△2	△3	+0
現預金等の増減額 ※2	122	51	+71
現預金等の期首残高	251	195	+56
現預金等の期末残高	374	246	+127

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

キャッシュ・フローについてご説明致します。

営業キャッシュ・フローは、純利益を中心に106億円の収入、投資キャッシュ・フローは、LPガス、水素ステーションへの設備投資などがあり、133億円の支出となり、結果、フリー・キャッシュ・フローは▲27億円となりました。

財務キャッシュ・フローについては、借入金の増加などにより152億円の収入となり、現預金は122億円増加しました。

2021年3月期 通期業績予想

2021年3月期 通期業績予想

Iwatani
(単位：億円)

	2021年3月期 業績予想	2020年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	6,775	6,867	△92	△1.4%
総合エネルギー事業	3,013	3,135	△122	△3.9%
産業ガス・機械事業	1,897	1,905	△8	△0.4%
マテリアル事業	1,492	1,495	△3	△0.2%
自然産業事業	318	273	+44	+16.4%
その他	55	58	△3	△6.2%
営業利益	247	287	△40	△14.0%
総合エネルギー事業	140	139	+0	+0.1%
産業ガス・機械事業	84	119	△35	△29.9%
マテリアル事業	42	45	△3	△6.8%
自然産業事業	12	11	+0	+1.4%
その他・調整額	△31	△29	△1	-
経常利益	276	322	△46	△14.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	173	209	△36	△17.6%
想定レート	(上期) 為替 110円/\$		LPガス輸入価格 300\$/ト>	
	(下期) 為替 110円/\$		LPガス輸入価格 450\$/ト>	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

2021年3月期の連結業績予想としては、
売上高は、6,775億円
営業利益は、247億円
経常利益は、276億円
当期純利益は、173億円
と期初公表の業績予想を変更しておりません。

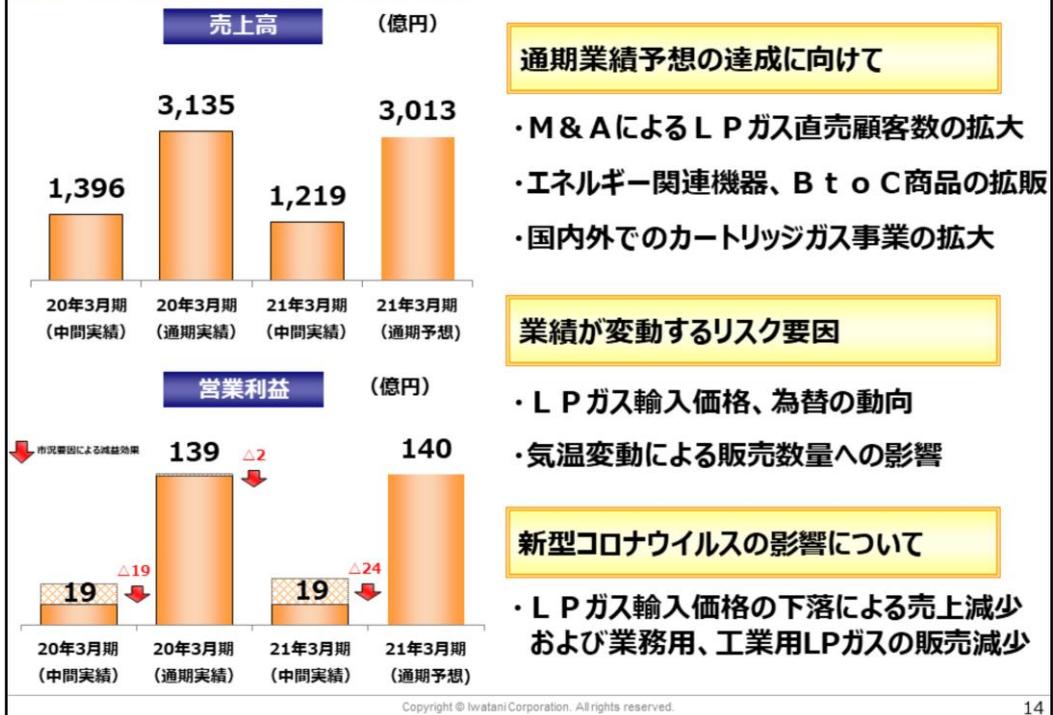
本見通しは、新型コロナウイルスの影響により、
LPガス輸入価格の下落による減収や、
産業ガス・機械事業、マテリアル事業における販売減が、
第1四半期を中心に上期を通じて続き、
下期には、前年並みに回復するとの想定の下、策定しております。

上期につきましては、
経常利益は前年同期比1億円の減益、
市況要因を除く経常利益では前年同期比3億円の増益となり、
新型コロナウイルスの影響は限定的となりました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せないことや、
上期に発生したマイナスの市況要因の解消が不透明であることから、
期初に公表した業績予想については、現段階では変更しておりません。
業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに開示させていただきます。

総合エネルギー事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・M & AによるLPガス直売顧客数の拡大
- ・エネルギー関連機器、B to C商品の拡販
- ・国内外でのカートリッジガス事業の拡大

業績が変動するリスク要因

- ・LPガス輸入価格、為替の動向
- ・気温変動による販売数量への影響

新型コロナウイルスの影響について

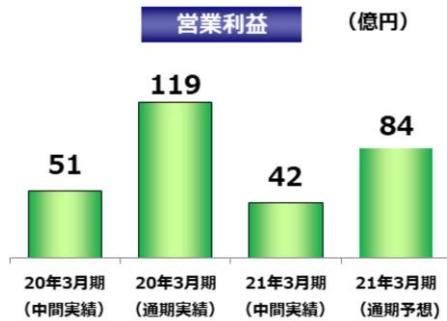
- ・LPガス輸入価格の下落による売上減少
および業務用、工業用LPガスの販売減少

総合エネルギー事業ですが、
売上高は、3,013億円で3.9%の減収、
営業利益は、140億円でほぼ横ばいと予想しております。

直売顧客数の拡大に向けては、M&Aを推進するため、
専任の人員を増やし、東京と大阪に集中的に配置しました。
M&A体制を強化し、直売戸数、LPガス販売数量の増加に努めてまいります。

また、富士の湧水などの消費者向け商品の販売を強化するため、
カートリッジガス本部の中に、BtoC商品を専門に扱う新たな組織を設置しました。
カートリッジガス事業で培った販売網やノウハウを活かし、
BtoC事業の拡大に取り組めます。

カートリッジガス事業においては、巣ごもり需要を確実に取り込むとともに、
海外についても、さらなる販売拡大を目指して、
中国や東南アジア等での販売体制の強化を図ってまいります。



通期業績予想の達成に向けて

- ・成長分野へのエアガスの拡販
- ・液化水素の新規ユーザー獲得
- ・ヘリウム安定供給
- ・自動化・省力化に向けた設備需要の取込み

業績が変動するリスク要因

- ・電力料金上昇による製造コストへの影響
- ・為替変動

新型コロナウイルスの影響について

- ・国内外の景気低迷による、各種産業ガス、機械の販売減少

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

産業ガス・機械事業ですが、
売上高は、1,897億円でほぼ横ばい、
営業利益は、84億円で29.9%の減益を予想しております。

エアセパレートガスに関しては、コロナ禍の中でも成長の見込まれる、
次世代通信関連分野を中心に、販売増加に努めてまいります。
また、液化水素については、引き続き新規ユーザーの獲得を進めます。

機械設備については、厳しい状況ではありますが、
自動化や省力化に向けた設備投資などの需要が拡大すると
見込まれる分野を中心に、拡販を進めます。

マテリアル事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・低環境負荷PET樹脂の拡販
- ・バイオマス事業の拡大
- ・二次電池材料の拡販

業績が変動するリスク要因

- ・資源市況の変動
- ・為替変動

新型コロナウイルスの影響について

- ・国内外の景気低迷による、主力商品の販売減少

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

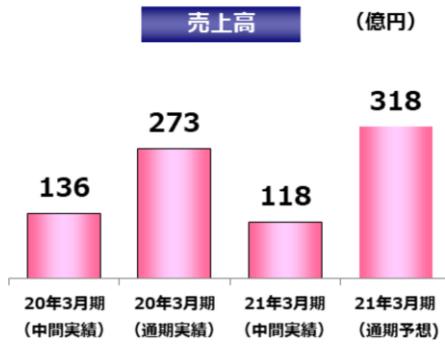
マテリアル事業については、
売上高が1,492億円ではほぼ横ばい、
営業利益は42億円で6%の減益を予想しております。

SDGsへの意識の高まりに伴う、環境分野の市場拡大を見据え、
引き続き、低環境負荷PET樹脂や、バイオマス燃料であるPKSなどの
環境商品の販売に注力するとともに、新商品の開発に努めます。

二次電池材料については、次世代自動車向けの需要が増加する見通しで、
引き続き拡販に取り組んでまいります。

自然産業事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

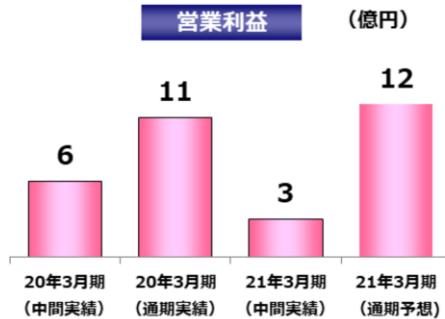
- ・一般消費者向け冷凍食品の開発・販路開拓
- ・種豚の拡販
- ・農業・畜産設備の拡販

業績が変動するリスク要因

- ・原材料価格変動
- ・天候不順
- ・為替変動

新型コロナウイルスの影響について

- ・外食・給食向けの冷凍食品の販売減少



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

自然産業事業については、
売上高は318億円で16.4%の増収、
営業利益は12億円でほぼ横ばいと予想しております。

業務用冷凍食品の拡販に加え、一般消費者向け冷凍食品の開発および、
食品スーパーなどの新たな販路の開拓に取り組めます。

また、農業生産事業への参入や、省人化・自動化機器の開発・販売、
大手養豚事業会社向け畜産設備・種豚販売の強化を図ります。

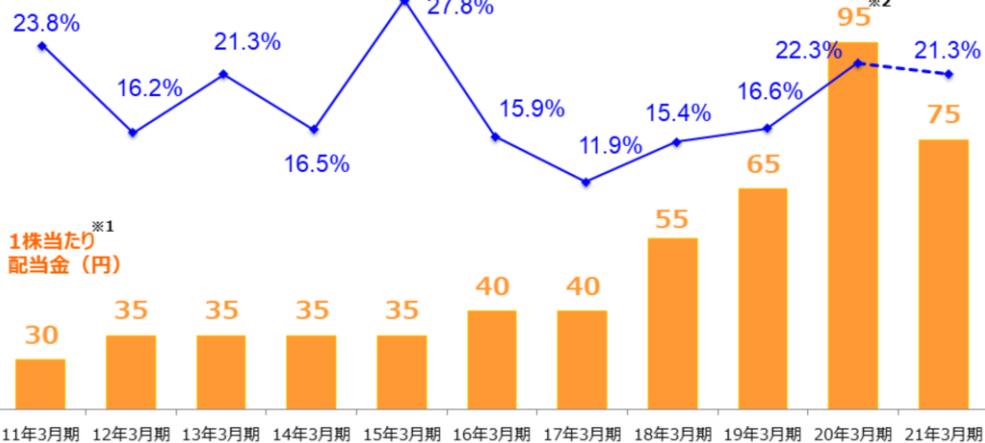
株主還元について（連結）

Iwatani

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施

連結配当性向 (%)



11年3月期 12年3月期 13年3月期 14年3月期 15年3月期 16年3月期 17年3月期 18年3月期 19年3月期 20年3月期 21年3月期

※1 2011年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額

※2 うち記念配当20円含む

(予定)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

株主還元についてご説明致します。

2020年度の配当につきましては、
期初に公表しました通り、前年の記念配当20円を除く、
10円の増配を維持した1株あたり75円を予定しております。

今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を
実施していきたいと考えております。

事業トピックについて

日米での水素ステーションの整備



イワタニ水素ステーション 羽田空港



Iwatani West Sacramento H2 Fueling

当社の水素ステーション（国内）



現在

2020年度末

当社の水素ステーション（米国）



現在

計画

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みについてご説明致します。
EUでは、水素戦略が採択され、2030年には1千万トンの水素の生産体制を整える方針が打ち出されました。

菅総理も、所信表明演説で、2050年までに温室効果ガスの排出量をゼロにする方針を示すなど、水素の利活用をはじめとした地球温暖化への対応は、世界的な動きになっています。

当社は日本、および米国にて、水素ステーションの整備を進めており、日本国内では今年度中に53カ所を整備する計画です。
米国では既存の4カ所に加え、南カリフォルニアに7カ所の水素ステーションの建設を予定しており、早期に20カ所まで拡大する計画にしています。

水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みについて **Iwatani** 各種協議会を通じた水素の利活用の取り組みの推進



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

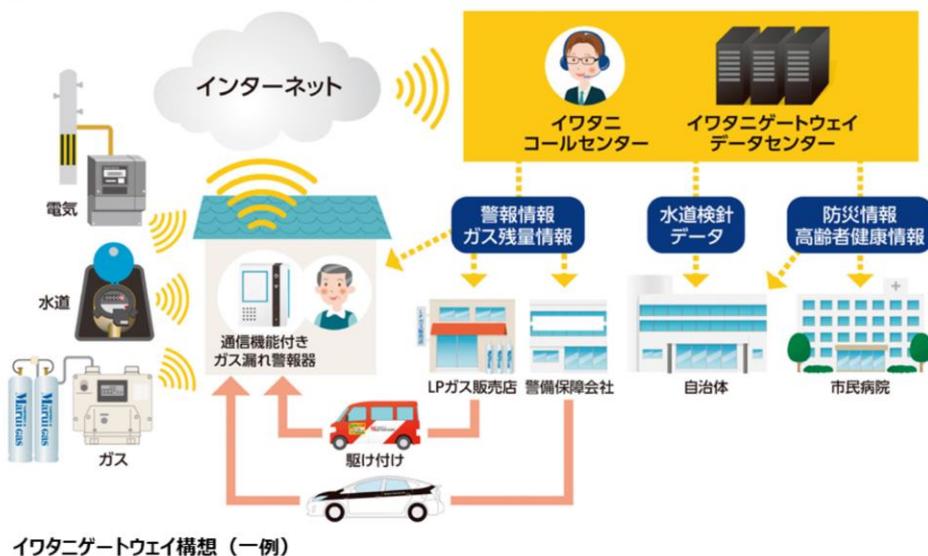
21

また、オーストラリアから、CO₂フリーの液化水素を調達する実証試験を進めるとともに、「神戸・関西圏水素利活用協議会」を設立し、参加企業とともに、神戸・関西圏における水素利活用の社会実装と水素サプライチェーンの構築を進めています。

さらに、水素分野におけるグローバルな連携や、水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」の設立に向けて、準備を進めています。

今後は、取り組みにご賛同頂ける企業、自治体、団体を募り、皆様と連携し、水素エネルギー社会の実現に向けて取り組んでまいります。

量産化に向けた自治体との連携による実証の実施 新会社設立による事業化の推進



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

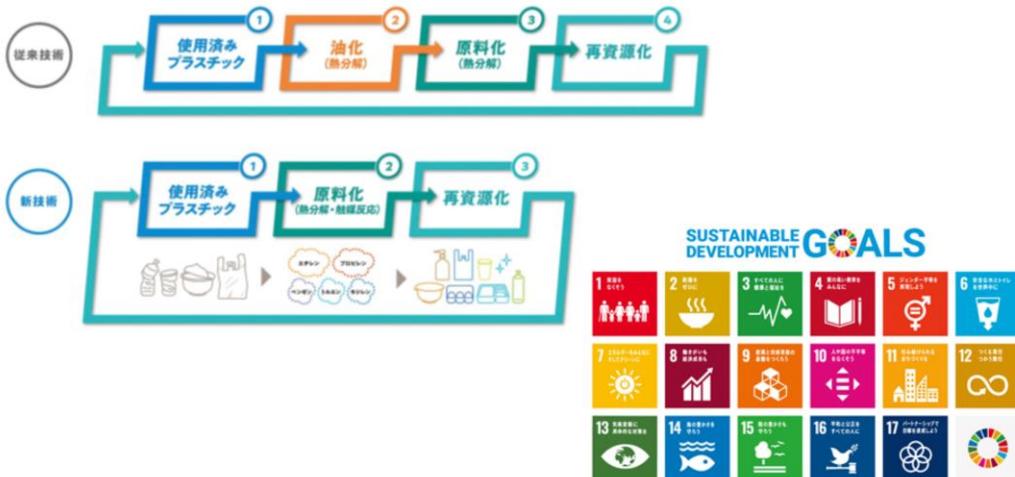
イワタニゲートウェイ構想についてご説明致します。
家庭に設置するガス漏れ警報器などの各種警報器に、通信機能を付加することで、色々な「モノ」をインターネットにつなぐゲートウェイ(中継基地)として機能する新技術を開発し、新たな顧客サービス・事業の創出に取り組んでいます。

現在は、京都府の京丹後市や、島根県の大田市において、自治体と連携して、最終段階の確認をおこなっており、4月以降の量産化に向けて準備を進めています。

また、イワタニゲートウェイの事業化を加速する目的で、当社を中心として、関係する企業と共同で新会社を設立し、新しいサービスの開発、データの分析・利活用の検討を行い、新たな価値創造につなげてまいります。

プラスチックの再資源化事業への取り組み

R PLUS JAPAN



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

23

ESG・SDGsに関連する取り組みについてご説明致します。

当社は、使用済みプラスチックの再資源化事業を行う新会社「アールプラスジャパン」を、サントリーをはじめとする12社と共同で設立しました。

当社としては、再資源化により生産される原料を用いたPET樹脂製造を協力会社と行い、大手飲料メーカーに向けて販売する計画です。環境負荷の少ない、効率的なプラスチック再資源化事業の確立を進めるとともに、低環境負荷PET樹脂の拡販を通じて、海洋汚染など、環境問題の解決に向けた取り組みを加速しています。

以上

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL:06-7637-3470

FAX:06-7637-3333

Webサイト:<http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.